

第13回阪南みらい会議 会議要旨

日時：平成22年6月29日(火)

19:00~21:00

場所：市役所3階 全員協議会室

出席者

委員	16名(欠席者5名)
アドバイザー	近畿大学 久教授
事務局	総務部理事、みらい戦略室5名、 パンフィックコンサルタンツ(株)1名

(1) 会議の進め方について

(まとめ)

- ・全体形式にて、前回の「ともにさかそう笑顔とお互い様のまち阪南」をたたき台に、全員が合意できるキャッチフレーズを決定する。

(2) 委員の意見

(「築こう」「さかそう」の選択に係る意見)

- ・「ともに築こう」というのはどうか。「さかそう」は印象が弱く、待ちの姿勢に感じられる。
- ・「築こう」には、「まちづくりのための階段を作る」という意味を込めている。まちづくりには目標だけでなく、プロセスも大事であると表明したい。
- ・後ろにくる言葉によって、「築こう」か「さかそう」かが決まるのではないか。「さかそう」は「笑顔」にかかると思う。
- ・「さかそう」「築こう」は共に「しよう」という意味で、意志を示すものだ。従って、「さかそう」でも十分にプロセスの重要性を表現することが出来る。
- ・「さかそう」には「咲かせる」と「栄えさせる」という意味を込めており、「笑顔」のみにかかるものではない。
- ・キャッチフレーズとしては、「さかそう」のほうが「築こう」より新鮮な言葉ではないか。
- ・一市民として、「さかそう」はわかりやすく感じる。
- ・「さかそう」は優しいイメージの言葉であり、子供にも分かりやすい。

~久教授アドバイス~

- ・「築く」は自動詞であり、もともと建築の意味があり、「自分が動いて何かを作る」というニュアンスがある。一方「咲そう」は他動詞であり、他者との関係性のなかで、相手方を考慮して動いていくという印象がある。

- ・「さかそう」と耳で聞いてイメージするのは、花などの自然であるので、自然を表現しているともいえる。

(「 のまち)に係る意見)

- ・「共生」という言葉がいいと思う。「人と自然の共生のまち」というのはどうか。
- ・市民活動に携わっていない一般市民の感覚としては、「共生」や「協働」はわかりづらい。
- ・「笑顔とお互い様のまち」というのは、人間関係だけに偏っているのではないか。
- ・「お互い様」には、動植物を含む自然も人間並みに扱い、一緒に生きていこうという意味を含むのだという解釈もある。
- ・これから10年間、人間関係により力をいれ、人と人がつながり気持ちよく生きていける社会を目指すのであれば、やや人間関係に寄っていても問題ないのではないか。
- ・「様」という漢字には敬称というイメージがある。ひらがなにしてはどうか。

(その他の意見)

- ・キャッチフレーズの言葉づかいは、受け手の想像する余地を残しておいたほうがよいのではないか。ただ、余地を残す以上は、解釈をつけておく必要はあるだろう。
- ・最後に「阪南」とつけなくてもよいという意見があったが、他のまちに対する意思表示としても入れておくべきだと思う。
- ・「ともに」というところで共生の意味合いがあるのを、解釈として入れるべきではないか。

(3) 最終キャッチフレーズ

ともにさかそう笑顔とお互いさまのまち 阪南とすることで合意。

(4) 今後の進め方について

- ・「最終キャッチフレーズ」は決まったが、次の作業として、その言葉に込められた意味や、柱の共有部分まで確認しておくのか。その是非について、各委員により議論が交わされた。
- ・共有部分まで確認するののかも含めて、委員提出の提言書(案)4ページをたたき台に議論を行い、共有できた部分については文書化するのかどうか検討し、出来なかった個人の意見の部分については会議録の記載にとどめるものとする。
- ・総合計画審議会へ送る代表者についても、次回の会議で検討することとする。

(5) 次回の日程と司会者について

7月9日(金) 19:00~

司会者は石川委員、岡委員とする。